

MITSUBISHI

三菱パイプ用ファン 人感センサー付 トイレ・洗面所用

据付説明書

工事店さま用

形名によって取扱いが異なりますので、予め使用の形名をご確認ください。

形名表示位置 (V-08タイプ) 形名表示位置 (V-12タイプ)

据付け終了後は、必ずこの説明書をお客さまにお渡しください。

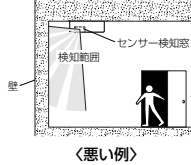
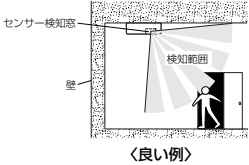
据付けを始める前に、誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を梱包外側の「警告」「注意」で説明しておりますので、この説明書とともによくお読みになり、正しく安全に据付けてください。

- 電気工事は電気工事士の方が実施してください。
- この製品はトイレ・洗面所に据付けてください。それ以外の用途には使用しないでください。故障の原因になります。
- 直接屋外に排気する場合、雨水浸入防止のためシステム部材（ウェザーカバーなど）を据付けてください。
- 雨水浸入防止のため外風の吹き付けの強い場所では風圧シャッター付深形フードを据付けることをおすすめします。壁面汚れ、雨水浸入、電気式シャッターのはたつきの原因になります。

形名	機能	グリル形状	電源仕様	適用パイプ	付属部品
V-08PA6	人感センサー付 (停止タイプ)	角形 格子グリル	電源プラグ	●塩化ビニル管 VP、VU (呼び径 100mm)	木ネジ 2本
V-08PAD6			連結端子		
V-08PAL6	人感センサー付 (常時弱運転タイプ)		電源プラグ	●銅板管 (内径 100mm)	
V-08PAS6			連結端子		
V-12PAS6	人感センサー付 (停止タイプ)		電源プラグ	●塩化ビニル管 VP、VU (呼び径 150mm)	
V-12PAD6			連結端子		
V-12PAL6	人感センサー付 (常時弱運転タイプ)				

お願い

- 高温 (40℃以上) になるところに据付けしないでください。(故障の原因になります)
- 塩害、温泉泉の発生している場所には据付けしないでください。(故障の原因になります)
- アルミフレキシブルダクトへの据付けはしないでください。(振動の原因になります)
- システム部材 (ウェザーカバーなど) は壁厚にあったものを選んでください。(壁厚により取付けられないものがあります)
- 天井・壁板は、振動・共鳴音防止のため強度のあるものとしてください。
- 効果的な換気を行うために給気口を設けてください。
- 換気扇に直射日光などが当たる場所には据付けしないでください。(誤動作の原因になります)
- 雨切など障害物のあるところには据付けしないでください。(誤動作の原因になります)
- 壁スイッチを使用する場合は、通常「入」の設定としてください。(誤動作の原因になります)
- 天井据付の場合、センサー検知窓を壁面側に向けて据付けしないでください。(検知不良の原因になります)



安全のために必ず守ること → 梱包箱を確認ください

外形寸法図 → 梱包箱を確認ください

取付方法

注意

- 湿気が多い場所 (浴室及びシャワー付洗面台・衣類乾燥機などの湿気が直接当たる場所)、結露する場所には据付けできない (感電・故障の原因になります)

1. 据付前の準備

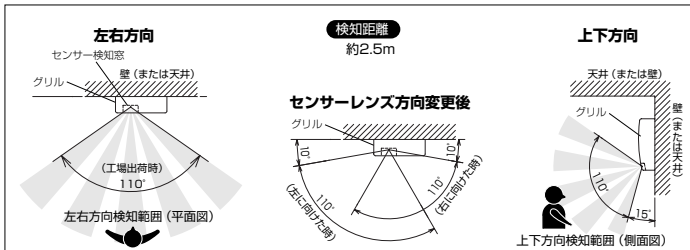
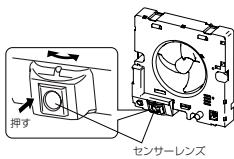
- 通常の入室の動作で人体を検知するよう、下記の検知範囲を参考にして適切な据付位置を選定してください。

センサー検知範囲

センサーの特性上、検知範囲 (下図 部) を横切る動きは検知しやすく、センサーに真っすぐ近づく動きは検知しにくい場合があります。センサーレンズの向きは左右に変更することができます。検知しにくい場合は検知しやすい向きに変更してください。

センサー検知範囲を左右に変更する場合

1. 本体からグリルをはずす。
2. 手でセンサーレンズの箱の左右を押して方向を変える。



壁据付けの場合

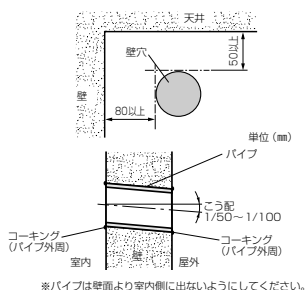
1. 据付け場所を決めて穴をあける。
 - 壁厚に応じてパイプの長さを決めてください。
 - 必ず床面より 1800mm 以上のメンテナンス可能な位置に据付けてください。
 - 本体左側面にスイッチがありますので、操作性を考慮して左壁面からの距離を十分離すことをおすすめします。

2. 壁穴にパイプを確実に固定する。

- パイプと壁のすき間はコーキング処理を施します。
- 連結端子タイプは電源線を室内に引き込んでから [2. 電気工事] 参照) 行ってください。
- 固定が不十分ですら振動したり異常音が発生する原因になります。
- 壁内の雨水浸入を防止するためパイプは室内壁面まで差し込んでください。

お願い

- ダクトは雨水の浸入を防ぐため屋外側に下りこう配をつけ、固定してください。

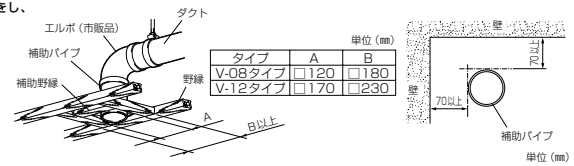


※パイプは壁面より室内側に不出ないようにしてください。

据付方法 つづき

天井据付けの場合

1. 右図のように野線組立をし、ダクト工事をする。

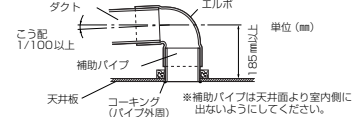


お願い

- 補助パイプが壁から右図の位置になるようダクト工事を行ってください。

2. ダクトの中心から天井板まで 185mm 以上離して天井板をはる。

3. エルボと天井板の間は補助パイプを接続する。パイプと天井のすき間はコーキング処理を施します。



お願い

- 交流 100V を使用する (直流や交流 200V を使用すると感電の原因になります)
- ダクトは雨水の浸入を防ぐため屋外側に 1/100 以上の下りこう配をつけてください。
- 天井板に強度がないときは補強材を入れてください。

2. 電気工事

警告

- 交流 100V を使用する (直流や交流 200V を使用すると感電の原因になります)

注意

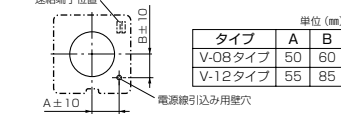
- 電気工事は電気設備に関する技術基準を定める省令 (および同解説) および内線規程に従って安全・確実に行う (接続不良や誤った電気工事は、感電・火災の原因になります)
- 電気工事は電気工事店に依頼する (感電の原因になります)

- 市販のスイッチを使用される場合は適切なスイッチを組合わせて接続してください。
- 当社以外の電子式スイッチ (半導体制御による速断スイッチ・タイマーなど) をご使用の場合は組合せし、不具合が発生するおそれがありますのでご使用の際はあらかじめご確認ください。

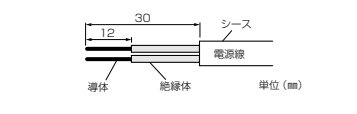
速結端子タイプの場合

1. 電源線を下図の位置から室内に引き込む。
2. 電源線の先端を下図に合せて皮むきます。

- 電源線は VVF φ 1.6 または φ 2.0 2芯をご使用ください。



- 端子部への水の浸入・ほこり侵入を防ぐため皮むき方を必ず守ってください。



電源プラグタイプの場合

内線規程に基づくコンセントを屋内の換気扇の近くに設ける。

3. 本体の据付け (壁据付け・天井据付けともに同様の据付けかたです)

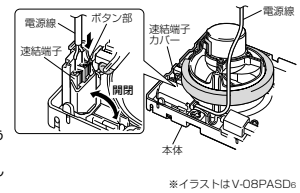
1. 本体からグリルをはずす。
2. センサーレンズの向きを調節する。センサー検知範囲を左右に変更する場合は [1. 据付前の準備] を参照してください。(センサーレンズの向きは、工場出荷時は正面に設定されています)

3. 接続をする [速結端子タイプの場合]

- ①速結端子カバーの引掛部に手を掛け、右図のように開ける。
- ②電源線を速結端子に差し込む。
- ③確実に速結端子カバーを元通り閉じる。

お願い

- 電源線の皮むき部分は確実に速結端子に差し込み、端子より出ないようにしてください。
- 電源線を軽く引っ張って速結端子に確実に固定されていることを確認してください。
- 電源線は本体面に密着させて配線してください。
- 電源線を速結端子よりはずす場合は、ボタン部を押しながら電源線を引き抜いてください。



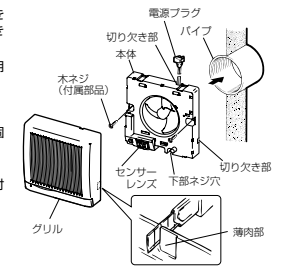
※イラストは V-08PAS6s

4. 本体を固定する。本体の上下を確認して本体をパイプに差し込み、付属の木ネジ 2本で本体を固定する。

- 左右の据付用穴をご使用ください。必要に応じて下部ネジ穴 (12タイプは上下部ネジ穴) をご使用ください。
- 電源プラグを左右から出す場合は、グリルの薄肉部を切り欠き、電線をかまさないように切り欠き部から引き出します。本体上部の切り欠き部は市販のテープなどでふさいでください。(電源プラグタイプのみ)
- 石膏ボードに据付ける場合は、市販の石膏ボード用アンカーを必ず使用してください。

お願い

- 下部ネジ穴を使用する場合 (3か所所定) は、下部のネジ穴部を先に固定後、左右 (2か所) のネジ穴部を固定してください。(本体の変形・シャッター開閉不良の原因になります)
- 本体をパイプに差し込むとき、シャッター中央部 (電気式シャッター付タイプ) およびセンサーレンズに力を加えないでください。(シャッター開閉不良・センサー検知不良の原因になります)



※イラストは V-08PA6

5. グリルを本体に取付ける。
 - グリルの方向を間違えないよう本体に取付けます。
 - 電源プラグを左右から出す場合は、電線をかまさないように取付けます。
6. 電源プラグタイプは電源プラグを専用のコンセント (単相 100V) に差し込む。
7. 以上の据付けが終了した後、本体とグリルが確実に据付けられているか確認する。

試運転

据付けが完了しましたら、下記の要領にて試運転を行ってください。

お願い

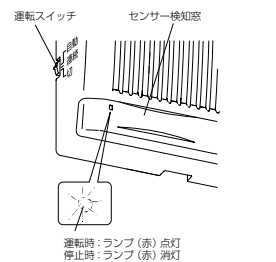
- 検知しにくい場合はセンサーレンズの向きを調整し、再度試運転を行ってください。

停止タイプの場合

1. 運転スイッチを「切」の位置にする。
2. 運転スイッチを「自動」にすると運転ランプ (赤) が点灯し、換気扇が運転 (電気式シャッター付はシャッターが「開」) するかを確認する。
3. 運転 (運転ランプの点灯) 確認後退室し、約 1 分後に換気扇が停止し、運転ランプが消灯 (電気式シャッター付はシャッターが「閉」) するかをセンサー検知範囲外の位置で確認する。
4. 停止 (運転ランプ消灯) を確認後、通常の入室の動作で換気扇が再度運転するかを確認する。

常時弱運転タイプの場合

1. 運転スイッチを「切」の位置にする。
2. 運転スイッチを「自動」にすると運転ランプ (赤) が点灯し、換気扇が運転 (強) するかを確認する。
3. 運転 (運転ランプの点灯) 確認後退室し、約 1 分後に換気扇が弱運転に切り替わるかを、センサー検知範囲外の位置で確認する。
4. 弱運転への切り替えを確認後、通常の入室の動作で強運転に切り替わるかを確認する。



運転時: ランプ (赤) 点灯
停止時: ランプ (赤) 消灯

取扱説明書は表面をご覧ください